

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 8 号

第 8 週(2月21日～ 2月 27日)

発行年月日:平成17年(2005年) 3月 4日

発行 :滋賀県立衛生環境センター
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (8週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (8週)	全国 (8週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	2	63	9	576
	腸チフス	0	0	6	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	65	21	3,640
4類感染症	E型肝炎 ^{(*)2}	0	0	8	1	34
	オウム病	0	0	10	1	39
	デング熱	1	1	4	2	45
	マラリア	0	0	9	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	0	98	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	57	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	15	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	0	161	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	6	2	85
	梅毒	0	0	71	4	516
	破傷風	0	0	8	2	100
急性脳炎 ^{(*)2}	0	0	22	1	163	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:平成17年第6週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

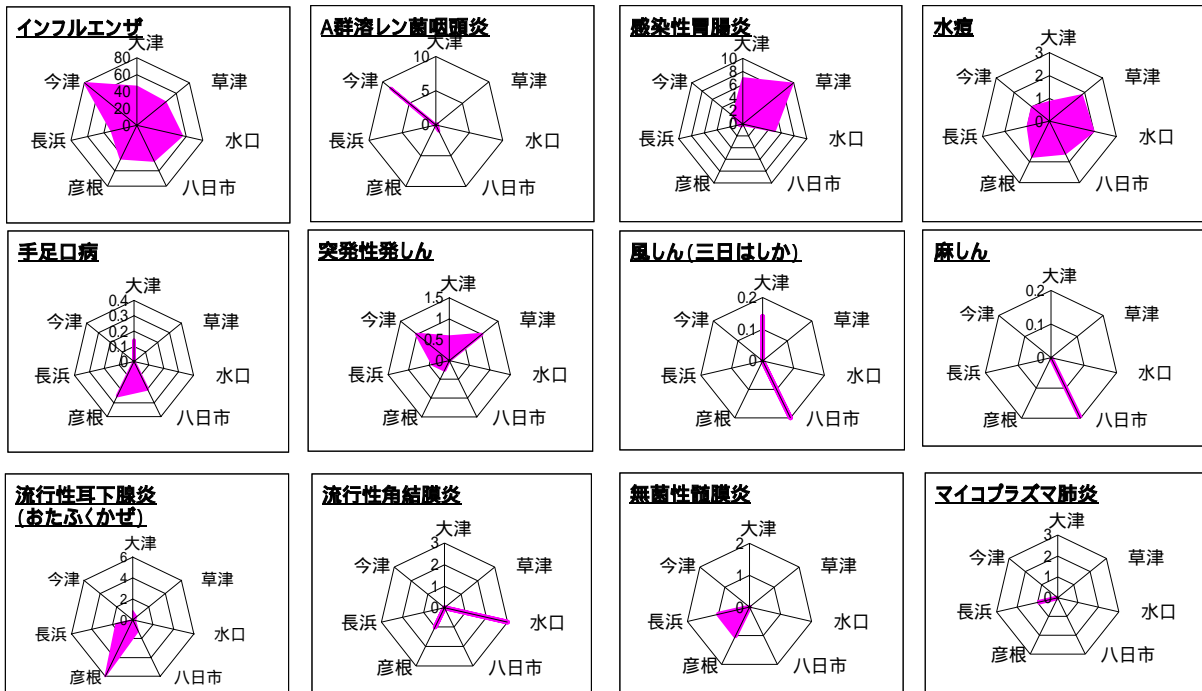
(1)疾病別・週別発生状況(第3～8週、1/17～2/27)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
	3週	4週	5週	6週	7週	8週	週				
	(1/17～)	(1/24～)	(1/31～)	(2/7～)	(2/14～)	(2/21～)	4	5	6	7	8
インフルエンザ	0.76	2.27	5.61	17.25	25.37	46.10					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.03	0.15	0.12	0.06	0	0					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.48	0.45	0.52	0.64	0.45	0.82					
感染性胃腸炎	6.21	6.12	6.39	5.12	5.03	4.21					
水痘	1.79	2.39	1.61	1.82	1.39	1.42					
手足口病	0.27	0.45	0.12	0.21	0.24	0.09					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0.03	0	0	0.06	0					
突発性発しん	0.58	0.45	0.58	0.61	0.45	0.45					
百日咳	0	0.03	0.03	0	0	0					
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0.06					
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0.03					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.85	1.39	1.39	0.55	0.79	1.45					
急性出血性結膜炎	0	0.14	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0	0.14	0.43	0.14	0.14	0.57					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0.43	0.14	0	0.57	0	0.29					
マイコプラズマ肺炎	0.43	0	0	0	0.29	0.14					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第8週、2/21～2/27)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	46.10	45.09	42.70	54.14	45.75	42.71	30.00	78.00
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.82	0	0.33	0.25	1.00	0.25	0.20	8.50
感染性胃腸炎	4.21	7.00	9.83	5.00	0.20	0.50	0.80	2.00
水痘	1.42	0.86	1.83	2.00	1.60	1.75	1.00	1.00
手足口病	0.09	0.14	0	0	0.20	0.25	0	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.45	0.57	1.00	0	0	0.25	0.40	1.00
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0.06	0.14	0	0	0.20	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
麻疹(成人麻疹を除く)	0.03	0	0	0	0.20	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.45	0.86	0.50	0.25	1.20	6.00	1.60	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.57	0	0	3.00	0	1.00	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	0	0	1.00	1.00	0
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザの県内における発生は県内全域に拡大し、第4週以降は毎週約1.5～2倍増となっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は先週と同様、今津で多くなっています。流行性耳下腺炎は彦根で急増していますが、大津、八日市および長浜においても先週より多くなっています。

また、風しん(三日はしか)については大津および八日市から報告されています。麻疹については八日市から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

県内7保健所管内全てにインフルエンザの流行発生警報 A群溶レン菌咽頭炎、流行性耳下腺炎の発生は地域的な偏り

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(2月14日～2月20日)の報告数よりさらに増加し、特に、インフルエンザで激増しています。また、A群溶レン菌咽頭炎、流行性耳下腺炎についてもかなり増加しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

インフルエンザについては、先週の定点当たり患者数25.37よりさらに増加し46.10となっています。全ての保健所管内に「感染症の流行の警報・注意報システム(注)」による**流行発生警報**が出されています。インフルエンザの発生予防に対する注意(**手洗いとうがいを十分に**する、**人混みを避ける**、**マスクを使用する**など)が必要です。

(注)感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに定点当たり患者数の基準値を設定しています。

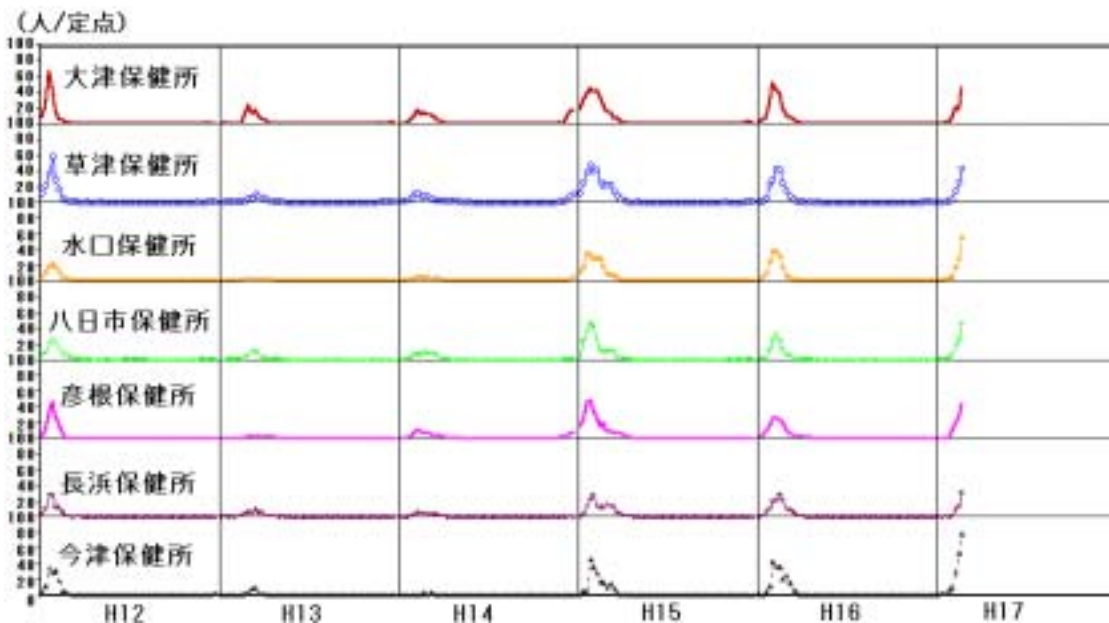
流行発生警報-----インフルエンザの場合、定点当たり患者数が30人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-ho/guide04.html>

A群溶レン菌咽頭炎については、先週の定点当たり患者数0.45より増加し0.82となっています。特に、**今津保健所**管内において8.50と非常に多くなっています。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については、先週の定点当たり患者数0.79よりさらに増加し1.45となっています。特に、**彦根保健所**管内において6.00と非常に多くなっています。

インフルエンザの保健所管内別発生状況(平成12年第1週～平成17年第8週、H12.1.3～H17.2.27)

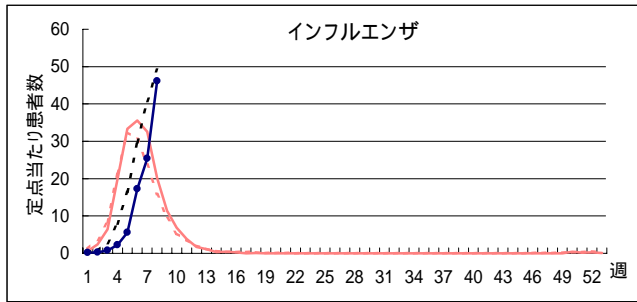


平成12年から平成17年の発生状況についてみると、平成17年第8週(2/21～2/27)になって各保健所管内とも例年と同程度または例年以上の発生数となっています。特に、今津保健所管内においては平成12年以降、最高の発生数となっています。

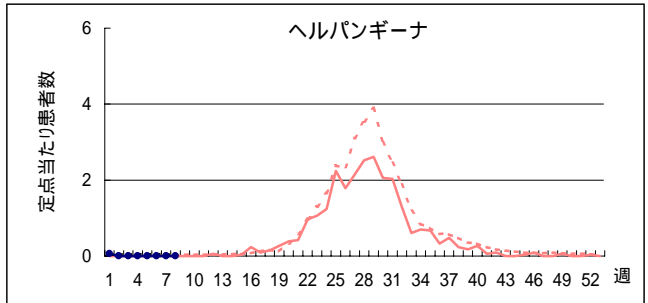
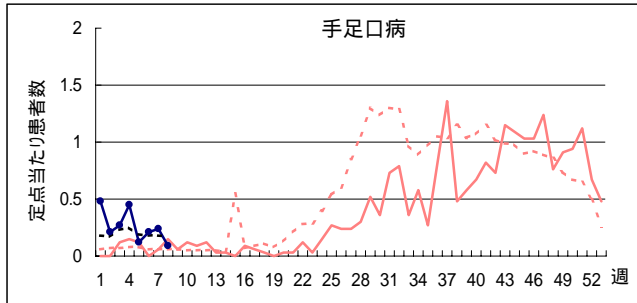
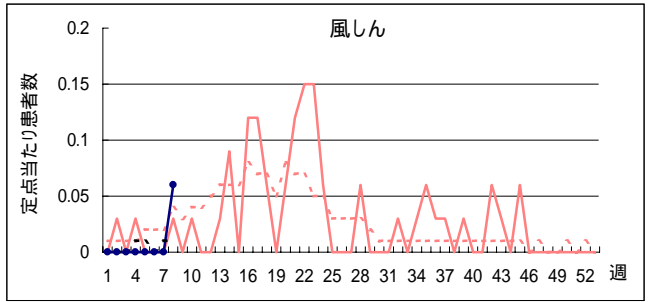
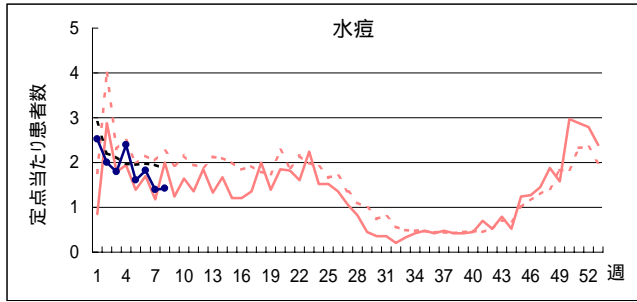
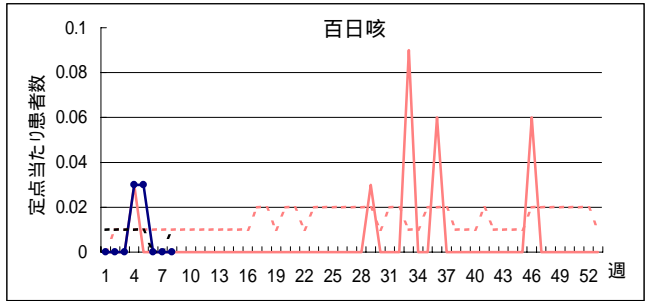
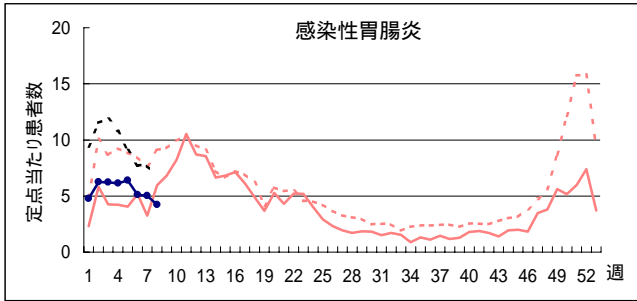
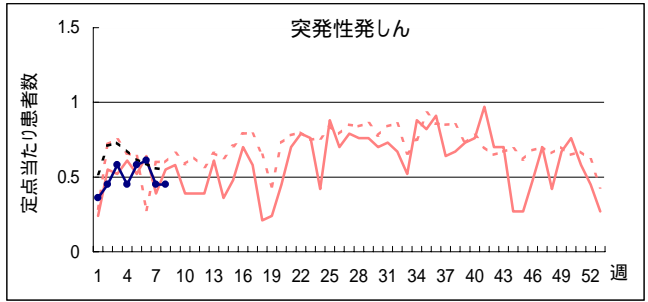
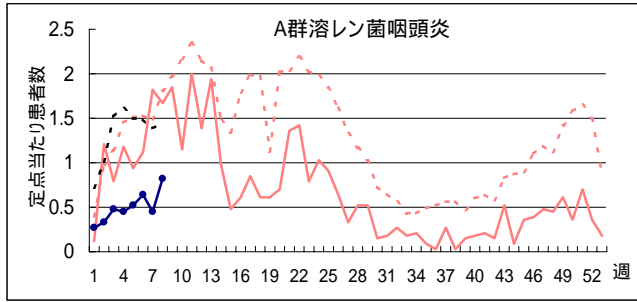
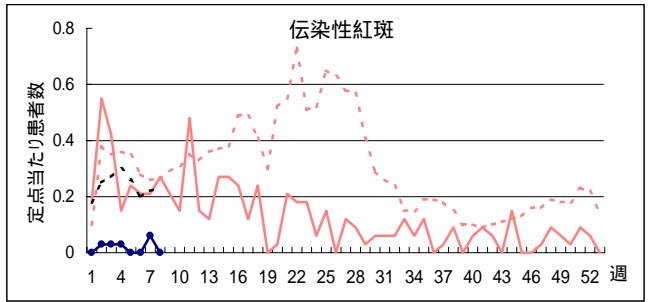
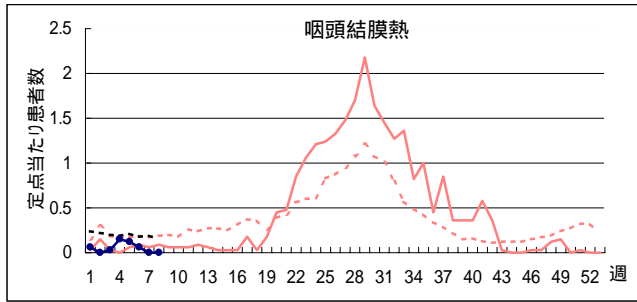
また、平成17年第1～7週における年齢別の発生状況については、各年齢層ともほぼ均等に発生していますが30～39歳の女性にやや多く発生している傾向がみられます。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第8週、H17.1.3～H17.2.27)



H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第8週、H17.1.3～H17.2.27)

H16 { 滋賀 ———— 全国 }
 H17 { 滋賀 ●——● 全国 }

